

編集委員会便り

本号の特集「分散型都市エネルギーシステム」は言葉通り分散型エネルギーシステムと都市エネルギーシステムの2つの話を総合的にまとめようとしたものである。過去の特集の中には2つテーマに関する個別の特集はあるが、このような形で両者を同時に扱ったものはない。もちろん燃料電池など分散型エネルギーシステムは、都市型のエネルギーシステムとしての利用に向いているので2つの結びつきは必然的であると考えてよい。本特集の目的は分散型エネルギーシステムを都市の面よりみることにより、どのような特徴や問題点があるか探ろうとするものがある。

最初、編集実行委員会で林前委員長より本特集に関するテーマ検討の指示をいただいたときは、従来の分散型エネルギーシステムを考えていた。しかし分散型エネルギーシステムに関する特集は本学会のみならず諸学会誌、商業誌においても繰り返し特集が行われおり、なかなか新しい面白い特集を組むことは容易でないので、編集委員としてはどのような特集とすべきか、すこし困っていたというのが正直なところである。

余談になるが、編集委員というのもやってみるとなかなか簡単ではない。特に会員読者の興味を引くテーマを見つけまたそれに合せた執筆者を探すのも容易でないが、それで終わりというわけでもない。大変にお忙しい多数の執筆者に原稿をお願いするのも気苦労が多いが、いろいろ突発事件があり、締切までに事務局へ原稿を送って頂けないことすらある。それゆえ、十分な数の専門家が確保できない分野の特集や、すでにさまざまな特集が出つくりしている分野の特集はなかなか大変である。

今回は、幸い文部省科学研究費のエネルギー重点領域のグループが分散型エネルギーシステムを含めた形

で都市エネルギーシステムに関する研究を行っていたので、本特集の執筆者の方々へ大変お忙しいことを承知で特集へのご協力をお願いしたじだいである。また併せて本学会が平成4年度2月に行った分散型エネルギーシステムに関する講習会の方からも本特集へ執筆していただくこととした。それゆえ、今回はグループとしてかなりまとまっている研究をベースに解説をしていただくことになる。その意味では、従来の特集と比べると本特集の内容は、整合性や一貫性の面で多少特徴があるのではないと思っている。このような形での特集はさまざまなメリットがあり、たとえば本学会内での研究プロジェクトを核にした特集なども考えられよう。また前号の場合は第8回エネルギーシステム・経済コンファレンスの中から炭酸ガスに関する研究論文特集を組んでいる。

ところで本特集のようなシステムの研究は今後エネルギーの分野でもますます重要になっていくものと思われる。もちろん個々の技術に本質的進歩がなければ総合的システムの事柄を云々してもしかたがないが、実際に利用され市場に浸透していくためにはシステム工学的にも充分考慮されていなければならない。都市における分散型エネルギーシステムの利用も、個々の技術が着実に進歩している現在、重要なテーマと言える。対象とする分野にどれだけの需要があり、そのエネルギーの導入によってどのようなエネルギー代替が生じるかを考慮し、あるいはまたエネルギーシステム全体の中でどのように位置づけられどのような問題があり、システム全体の効率を高めるにはどのようにすればよいか、本特集の視点である。

齋藤雄志
(専修大学経営学部教授)